



各季節さまざまな表情を見せる新田水路(写真は春)

美旗地域をガイドするときは、馬塚古墳や江戸時代から明治初期に宿場町として栄えた初瀬街道の町並み、新田水路、天正伊賀の乱で織田軍が築いた滝川氏城跡、観阿弥ふるさと公園などを歩いて案内しています。美旗地域は、古墳時代から近世までの歴史を楽しめる「歴史の宝庫」と言えます。

車で通過すると一瞬ですが、歩いて初めて気づく、歩けばこそ見つけられることがあります。

約330年前に造られた「新田水路」をご紹介します。戦国時代から江戸時代前期は、全国各地で新田の開発が盛んに行われました。しかし、当時から現在まで新田水路が現存し、今も利用され、田畑や町並みが当時のまま残されているところは数少ないようです。

新田地区では、田に水を入れる「水戸口」の大きさや、水を入れる時間を定めた「分水戸帳」を作り、違反するものを厳しく制裁する規則もあったようです。水路や水を大切にしていたことが感じられます。この計画分水は現在も行われています。

新田水路は春は桜の名所、秋には各家から水路に向けてのびる短冊状の田「ぜり田」一面に黄金色の稲穂が美しく、散策コースとしても楽しめます。



ボランティアガイドおきつも 松本直美さん

公民館活動「美旗ガイド」として、平成9年から美旗を案内。現在は、ボランティアガイドおきつもで活動 ※ガイドの派遣など詳しくは、(株)張市観光協会 ☎63-9087へ

美旗地域は古墳時代から近世まで楽しめる歴史の宝庫です

「観阿弥創座の地名張」を発信していきます

美旗の「小波田」は、能楽大成者の観阿弥が初めて座を設けた地と言われています。平成7年に市教育委員会は、「観阿弥創座の地名張」を発信しようと観阿弥ふるさと公園を整備し、能舞台を作りました。

観阿弥顕彰会では、子ども狂言など、地元の子どもたちが能や狂言に親しめるような取組みに力を入れています。これからも、子どもたちを通じ、「観阿弥創座の地名張」を発信していきます。



観阿弥顕彰会 会長 山中功さん

◀毎年11月の第1日曜日には、「観阿弥祭」が観阿弥ふるさと公園で開催され、地元の能楽愛好家による仕舞や子ども狂言などが披露されます。

課題を見つけ、よりよいメロンに



J A伊賀南部美旗メロン部 部長 山崎晃路さん

「美旗メロン」の生産は、平成7年に美旗市民センターの公民館サークル活動をきっかけに始まりました。生産しているのは11人、出荷数を年々増産し、今年は約7,500玉を出荷しました(※)。

「美旗メロン」の魅力は、糖度が高く香りが良い、そして安いことです。毎年課題を見つけ、品質の安定したよりよいメロンを作り、美旗の特産に育てていきたいです。

市民広報特派員 境さんの視点

今回、美旗地域の魅力をそれぞれの立場から4人にお話をお聞きしました。

馬塚古墳を中心とする美旗古墳群は、全国的に見ても誇れる歴史遺産であり、同時にわたしたちが後世に残す必要があると感じました。

新田水路は、330年以上も前にこのような事業が美旗地域で行われ、現在もその恩恵を受けて

いることに驚嘆しました。

能の大成者である観阿弥が創座した地で、子どもたちが狂言に親しむ機会を持たせることで、能楽文化や「観阿弥創座の地名張」を継承しているとする思いが伝わってきました。

市民センターのサークル活動から始まった「美旗メロン」が、20年足らずで美旗の特産になりつつあり、生産されている人の労苦が報われてい

ることを嬉しく思いました。

それぞれ、歴史・文化・伝統・挑戦と違うように見えますが、皆さん美旗地域に誇りを持っていることや熱意があることが感じられました。

今回レポートをすることで、自分の住む美旗地域の魅力を再発見することができました。皆さんも、自分の住む地域や、名張市の魅力を探してみたいかがでしょうか。

※「美旗メロン」の直売はJA伊賀南部カントリーエレベーター(上小波田)で毎年7月下旬から8月上旬にかけて行われます。